

<事前評価>

研究番号	2	担当部	健康・食品安全科学部	研究期間	令和7～9年度
研究課題名	石川県における重症熱性血小板減少症候群のリスク評価に係る研究				
研究課題概要	<p>研究目的 マダニ媒介感染症である重症熱性血小板減少症候群(以下、SFTS)の届出数が全国で増加傾向にあり、毎年死亡者も報告されている。また、野生動物(イノシシ、シカなど)がSFTSウイルスやその抗体を保有することが知られており、野生動物のSFTSウイルス抗体陽性率は届出数と相関関係があるとの報告がなされている。さらに、ヒトにおいて、SFTSを発症した伴侶動物(イヌ、ネコ)の体液からの接触感染の報告もある。 そのため、県内の野生イノシシにおけるSFTSウイルス抗体検査およびSFTS様症状を呈したヒト・伴侶動物におけるSFTS発生状況を把握し、SFTSウイルス感染の実態を解明するとともに、そのリスク評価を行い、SFTS対策の基礎資料とする。</p> <p>研究計画 (1)野生動物におけるSFTSウイルス抗体保有状況調査:年間200頭程度の野生イノシシ血液を用い、石川県保健環境センターにてSFTSウイルス抗体測定を行う。 (2)ヒトにおけるSFTS発生状況調査:感染症発生動向調査に基づき、SFTSを疑う患者の血液等からのSFTSウイルス遺伝子検索を石川県保健環境センターにて行う。 (3)伴侶動物におけるSFTS発生状況調査:県内10カ所程度の協力動物病院にて、SFTSを疑う症状を呈し受診した伴侶動物(イヌ・ネコ)の検体(血液・尿・口腔ぬぐい液・直腸ぬぐい液等)からのSFTSウイルス遺伝子検索を石川県保健環境センターにて行う。</p>				
評価結果	A	優先的に実施することが適当			
委員会意見	<p>SFTSウイルスの感染者は石川県ではまだそれほど多くはないが、気候変動に伴い、今後増加する可能性が高いことから、現状把握を行っておくことは極めて重要である。抗体を保有するイノシシの割合は不明であること、伴侶動物の感染もそれほど多くはないと思われることから、やや困難が予想されるが、その場合の対応について関連機関や専門家と相談しながら進めてほしい。</p> <p>SFTSウイルスの蔓延については十分な情報が蓄積されておらず、重要な研究である。せつかくヒトの血液と伴侶動物の血液や唾液を入手するので、SFTSウイルス遺伝子検査とともに、抗体検査を実施したらどうか。人や伴侶動物のSFTSウイルスの陽性率は低いと考えられることから抗体検査を加えることによって過去の感染状況についても情報を得ることが期待できる。</p> <p>石川県でも死亡例がある。ペットを介した感染や人から人への感染が報告されるなど、SFTSは注視すべき人畜共通感染症である。野生動物がSFTSの媒介動物となるため、本研究における感染マダニの生息地域の判定には、野生イノシシの血中のSFTSウイルス抗体価を指標とする。本県では毎年多数の野生イノシシが駆除されるため、その血液を採取して測定することは実行可能と考えられる。しかし、ヒトやペットの感染状況の調査計画については、イノシシの調査から感染地域を推定した後に、そこに近い動物病院に依頼して、ペットの血液採取を行うことが必要であると思われる。また、ヒトについては感染しているケースの把握は非常に困難、あっても1-2例と思われるので、ペットだけに絞って検査を行った後、マダニに感染しているペットの飼い主に検査を依頼するようにすることをお勧めする。</p> <p>野生動物の血清抗体評価、ペットなどの愛玩動物やヒトの疑い症例における遺伝子検出をSFTSを対象として調査するというなかなか野心的な計画。イノシシや犬などのサンプルにアクセスをするのであれば、もう少し網羅的な調査を考慮された方がよい。日本紅斑熱、ツツガムシ病などをイノシシサンプルで評価したり、また、ペットからの採血が可能であれば、COVID-19のスパイク抗体の評価などが含まれると、懸念されているペットの感染状況なども明らかとなり興味深い。感染症を1種ずつ評価していくアプローチは未知の感染症の探知には不十分と考えられるため、網羅性をもった評価系の構築を意識して、本調査を進められたい。</p> <p>いわゆる温暖化によって媒介者の生態が変わる可能性も含めて、リスク評価に取り込んでいただければ良いかと思います。</p> <p>能登地域での野生のイノシシやシカの駆除により、作業員のダニによる感染症のリスクがなくなるよう、より効果的な対策となるよう期待しています。</p>				